

3 地域の将来像

中丹地域が、今後(5年から15年後)めざしていくべき将来像は、次のとおりです。

関西広域交流時代の「みやこ」をめざして

中丹地域では、舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道の全線開通、日本海側拠点港に選定された京都舞鶴港の機能強化等、インフラ整備が進み、地域や国境を越えて人・もの・情報が大きく交流していく時代の鼓動が聞こえてきています。

今後は、豊かな自然と先端産業が共存する特性をいかし、磨きながら、中丹地域に住む人々にとって、この地域こそが輝かしい「みやこ」であると思えるような地域づくりを進めるとともに、人口減少が進む中、公共交通網の利便性向上を核に、管内3市を含む府北部地域の各市町が互いに役割をシェア・補完しつつ、一定規模の圏域を形成し、都市にない田園の魅力と都市機能の両方を享受できる新たな生活圏の構築を進めていきます。

また、府県を越えて広がる関西北部交流エリアの結節点、対外的には関西全域と北東アジアとを結ぶ日本海側の玄関口として、中丹地域をより大きなエリアの中で捉え、関西北部・日本海側の活性化の原動力となり、国際的に人・文化・産業・情報が交流する「みやこ」となることをめざしていきます。

